JWTC NEWSLETTER
Japan Women in Travel Club
JWTC ニュースレター
vol.34-3
Autumn 2014

出会い・発見・感動世界へ
海外渡航自由化50周年

広げよう！
人の輪　旅の輪

JATA×JWTC第4回勉強会

日本旅行業協会 運営役員・日本旅行業女性の会 第5代会長 木島榮子氏 講演採録

2014年7月3日(木)　参加者72名（JATA 26名、JWTC 46名）
観光ジャーナリスト　千葉千枝子

女性リーダーの育成が旅行業を変える

カーニバル・ジャパン代表取締役木島榮子氏。女性の皆さんにチャンスをつかんでほしいとメッセージ

今回で4回目を数えるJATA×JWTC合同勉強会が、去る2014年7月3日、霞が関（東京）のJATA会議室で開催されました。講師はJATA運営役員でJWTC第5代会長を務めた木島榮子氏。株式会社カーニバル・ジャパンの代表取締役として、プレミアムクラスの客船プリンセス・クルーズなどを手がける〝時のひと〟だけあり、会場は熱気に包まれました。

カーニバル・ジャパン木島榮子氏講演採録

「いつのまにか、こうなった」激動の時代に日本旅行業女性の会を創設

1980年、旅行業界で活躍する女性の仲間たちで立ち上げたのが、日本旅行業女性の会JWTCです。その5代会長を務めました。当時から女性は活躍こそしていましたが、表立つことはありませんでした。男性には横断的な組織があるのに、女性にはなかったのです。

80年代後半は、女性の地位向上や労働条件など法整備の黎明期でした。女性の社会進出に気運が高まるなか、男女雇用機会均等法（1986年）が施行され、あれから約30年。ですが欧米諸国に比べると、日本は未だ遅れています。安部首相が女性管理職比率の目標3割を掲げていますが、JWTCではすでに30年前から、こうした主旨で活動を続けてきました。

日本旅行業女性の会を立ち上げたエピソードもご披露

旅行業界は、6割を女性社員が占める職場です。異業種に比べ、女性の活躍の場がもっと広がると信じています。社内で活躍するだけでなく、もっと対外的に活躍する場を会社が女性に与えてほしいと思います。そのような場を与えられたら、女性もしっかりと受け止めてほしいと願います。

今回は、私のこれまでの49年という仕事歴から、「なぜ、今の私があるのか」を知っていただければとおもいます。振り返りますと、株式会社リクルートの代表取締役社長を務めた河野栄子さんが、かつてインタビューで「いつのまにか、今の立場になってしまった」と答えておられましたが、まさに私も今、同じ想いにあります。

カーニバル・ジャパン木島榮子氏講演採録

時代を乗り越え感じたものとは「人は女に生まれるのではない、女になる」

大学卒業後に、縁あってニュー・オリエント・エキスプレス株式会社（現在の株式会社エヌオーイー。NOE）に就職をしました。女性の多くは1、2年で寿退社する時代、「3年間、辞めません」という旨の誓約書を書くことを条件に、入社が許されました。

当時、感銘を受けた1冊に、フランスの女流作家で、哲学者サルトルのパートナーだったシモーヌ・ド・ボーヴォワールの「第二の性」があります。「On ne nait pas femme:on le devient（人は女に生まれるのではない、女になるのだ）」。女性らしさとは、社会的につくられた約束ごとに過ぎない、女性という枠にはめられて後天的に性を与えられてきたという、目が覚めるような内容でした。男性も女性も、同じ1人の人間として、平等に活躍していきたいと思いました。

海外渡航が自由化されたばかりで渡航手続きは煩雑でした。ただ、コツコツこなすうち取引先からの信頼も得て、自信がつきました。そして入社4年目にチャンスが訪れます。フィリピン航空の招待旅行に、女性社員として初めて参加したのです。その後、ヨーロッパやアメリカなど海外旅行の添乗も手がけ、クルーズとの最初の出会いもありました。

カーニバル・ジャパン木島榮子氏講演採録

ジェットツアーの倒産を機に独立 チャンスを与えられたら積極的に受ける

役職を得ると、男性からのやっかみも出てきました。そのうち株式会社ヴィーヴル（西武百貨店旅行事業部と統合。現在の株式会社PTS）から誘われ、転職をします。やがて海外の旅行見本市に参加する機会を得ました。日本からの参加者は男性ばかりですが、欧米は女性が大半でした。欧米の旅行業界は、女性の役職者が大半であると実感しました。

ヴィーヴルでは、プリンセス・クルーズなどの客船会社とGSA（日本総代理店）契約を結び、別会社を創りました。その後、当時のホールセーラー大手・株式会社ジェットツアーの100％子会社であるクルーズ専門会社の総支配人に招かれ、本格的に船の道へと進んだわけです。

1998年、ジェットツアーが倒産の憂き目のとき、わずか1日の綱渡りで独立をすることになりました。劇的な経験でした。独立後、一度も赤字を出すことなく順調にやってこられた理由は、ある意味、女性特有の〝大きな冒険をしない〟ことにもあったのかもしれません。

2年前、プリンセス・クルーズから、日本市場を開拓したいと申し出がありました。この四半世紀の実績が買われ、社員や今までのノウハウを「カーニバル・ジャパン」として継承しつつも、経営を米国の会社に委ねたのです。自身の、日本市場にクルーズを浸透・拡大したいという願いが、今につながっています。

女性の皆さんには、1歩、前を見てほしいとおもいます。3歩も5歩も先をみると失敗することもあります。常に自然体で、身の丈をみるのが私のポリシーです。チャンスが与えられたら、積極的に受けて欲しいとおもっています。

（記事全文は、JWTCのホームページをご覧ください）

懇親会

勉強のあとカスミダイニング「鞍手茶屋」を会場に懇親会が開催された

懇親会会場の席上で挨拶をする田辺典子JWTC副会長

JATA日本旅行業協会の中村達朗理事長

photo ©Chieko Chiba

JWTC TOUR

新緑の季節に行く 青森ならではのカルチャーツアー

2014年5月17日(土)～18日(日)　参加者12名（会員10名、ビジター1名、青森県観光国際戦略局1名）

JWTC親睦旅行

今年の親睦旅行は青森再訪の旅でした。昨年10月に実施したJWTC青森県視察研修旅行で、すっかり青森に魅せられた参加者のリクエストもあり、テーマも同じくカルチャーツーリズムの第2弾です。前回に引き続き、企画の段階からアドバイスをいただいた青森県観光国際戦略部主幹の工藤里実さんに、今回もご同行いただきました。

JR七戸十和田駅で、東北新幹線はやぶさ号を降り立つわれわれ一行を、工藤さんがにこやかに出迎えてくれました。

今回は十和田市をメインに、八戸市、奥入瀬地区といった南部地方を巡りました。青森といえば津軽とイメージしがちですが、かつては行政区が異なった南部地方の、また違った青森が体験できそうで、興味津々の旅の始まりです。

1日目

まず案内されたのは、駅に隣接する「道の駅しちの へ」です。青森に到着早々、「道の駅？」と思う間もなく、地元産の新鮮な食材であふれた店内に、散らばった一行。わずか30分で、いろいろなものを買い込み、再びバスに乗りました。人気は、青森産としてつとに名高い田子町のにんにくホワイト六片種、ながいもです。ほどいもといわれ、また、この地域ではポピュラーな食材のアピオスなども人気でした。無添加のりんごジュースを自宅へ送ったメンバーもいて、車中ではバスガイドさんや工藤さんを交えて、料理方法に花が咲きました。

地元食材たっぷりなヘルシーランチ 農園カフェ「ひびき」で

昼食は十和田市内のブルーベリー農園が運営する農園カフェ「ひびき」です。古民家を改装したどっしり、かつ素朴なレストランで、野菜をたっぷり使った女性にやさしいヘルシーなランチをいただきました。

午後は、十和田現代美術館で芸術鑑賞をしました。ありきたりな街並みが、カラフルな色彩風景に変貌するころ到着です。官公庁通り全体を美術館に見立てるという構想のもとに造られた美術館で、ガラス張りの建物を囲んで屋外アート空間がある、ユニークなつくりです。草間彌生やロン・ミュエクといった、世界的に名だたるアーティストの、コミッションワークを見て回りました。

詳細は2面へ続く

JWTC TOUR

JWTC親睦旅行・新緑の青森へ

1面から続く

バスは奥入瀬渓流の目に染み入るような新緑の中を通りぬけ、十和田湖畔をめざします。途中、2014年4月にオープンした十和田ビジターセンター・自然観察センターに立ち寄りました。木のぬくもりを感じさせる建物ではカモシカの剝製がお出迎えです。十和田の森と湖に暮らす生き物がわかりやすく展示され、自然の魅力をたっぷりと伝えてくれます。

夕暮れどき、十和田湖の西湖畔の高台に佇む十和田ホテルにチェックインしました。昭和14年創業、秋田杉の館と称され、国の重要文化財に指定されている歴史的建造物で、重厚な雰囲気です。秋田杉の巨木を巧みに配した3階建て本館の外壁は、杉の半丸太が張りつめられ、ロビーの天井や手すりの意匠も趣向を凝らしたつくり。森の中にどっしりと、鎮座している面持ちです。

美味しい夕食のあと12人のメンバーは、3つの部屋に分かれて宿泊。充実した旅の初日の話題で盛り上がり、親睦を深めました。

奥入瀬渓流の美女たち

秋田杉が魅力 十和田ホテルのおもてなし

親睦旅行1日目のしめくくりはカンパイで

2日目

翌朝の天気も、昨日に引き続き曇空で、十和田湖は深い霧に包まれていました。湖畔にある高村光太郎作、智恵子夫人がモデルという「乙女の像」を写真に収めたのち、山の天気は大荒れとのことで、八甲田ロープウェーはやむなく断念。代わりに新緑の奥入瀬・蔦沼近辺を散策することになりました。大自然の中でマイナスイオンをたくさん浴びて、大いに癒されるひとときを過ごすことができました。

十和田湖畔の「乙女の像」

十和田ホテルにて　ハイ・ポーズ

八戸酒造・利き酒を楽しむ

青森最後のランチは、十和田市に戻ってフレンチレストランの名店「ブラッスリーマスダ」へ。地元食材をふんだんに使った料理で知られています。メインディッシュに、特産のヒメマスを選び、東京ではなかなかお目にかかれない魚料理を堪能しました。

ラストのお楽しみは、「陸奥男山」で知られる八戸酒蔵見学・利き酒と屋形船遊覧です。海から眺める八戸の街並みに情緒をかきたてられ、屋形船に群れ飛ぶカモメに〝かっぱえびせん〟を与えて、童心にかえったあとは、酒蔵に。見学や利き酒を楽しみ、帰京の途につきました。

末筆となりましたが、青森県観光国際戦略部主幹の工藤里実さまには、心より御礼申し上げます。

（長野久絵　東京都公園協会）

JWTC Cultual Tour in Aomori

photo ©Chieko Chiba

名古屋支部だより

名古屋支部 第1回勉強会

「アジアの新しいリゾート・ベトナムの魅力」

2014年4月5日(土)

参加者9名（会員8名、ビジター1名）

2013年に日本とベトナムは国交樹立40周年を迎えました。インドシナ半島の東に位置し、北は中国、西はラオス・カンボジアと国境を接するベトナム。残念ながら50代以上の世代には、ベトナム戦争のイメージを強く持つ人がいます。また、ベトナム渡航者数のうちビジネスマンが大幅に占め、ハノイ、ホーチミンといった都市のホテルは、企業に押さえられて予約が取りづらい状況だそうです。

一方、最近では女性をターゲットに、エキゾチックなベトナム雑貨やファッション、ベトナム料理が雑誌やテレビに取り上げられ、観光を目的とした渡航者数の割合が増えています。女子旅で行きたいアジアの都市編ではハノイ、ホーチミンが上位にランク・イン。旅行会社のパンフレットを見ても、ハノイ、ホーチミンの滞在コースだけでなく、シニア層に向けての世界遺産を巡るコースや、ファミリー層向けのビーチリゾートなどがあり、ディスティネーション開発に力を注いでいると感じます。

今回は「アジアの新しいリゾート・ベトナムの魅力」をテーマに、ベトナム航空名古屋支店・旅客営業部の土肥周平氏を講師に迎えて、ディスティネーションセミナーを開催しました。青色がシンボルカラーのベトナム航空は、今年、日本就航20周年。名古屋線の開設も8年目になります。現在、中部国際空港からホーチミン線は週3便の直行便、ハノイ線はデイリーで運航されています。今年の7月から羽田―ハノイ線、成田―ダナン線の運航が開始されました。ベトナムへの期待が膨らみます。

名古屋から同日乗り継ぎで訪れることが魅力の中部エリアのビーチ、ホイアン、ダナン、ニャチャンには、新しいホテルが多く、ハード面も充実しており、エステも体験できます。ビーチだけでなく、世界遺産やゴルフ場、カジノもあります。治安も比較的よく、街じゅうにランタンの灯りがともり、ムード満点の夜のホイアンをそぞろ歩きができることもポイントです。おしゃれなレストランからローカルレストランまで、種類豊富な料理は、日本人の口にも合うと言われます。

常夏のイメージがあるベトナムですが、北部、中部、南部のエリアによってベストシーズンが異なります。冬場のハノイでは10℃を下回る日もあり、暖房設備がない学校は休校になるほどです。台風シーズンだったり、ビーチでは波の高い時期もありますので、ベトナムは旅行会社のノウハウやアドバイスを必要とするディスティネーションであるともいえます。

ホテルキャッスルプラザ　日本料理「佐久良」にて

JWTC Nagoya

名古屋支部　草次昌子

Relay Essay リレーエッセイ

One & Only の自負を持って

株式会社ジェイバ
市川裕美（会員番号436）

高校生の時に、初めて大阪から羽田まで乗ったときの凛としたスチュワーデスに憧れ、最初の職業としての始まりが今に至っていると思います。飛行機が好き、旅行が好きなことが原点となり、英語を勉強したくて米国留学し、帰国後もマレーシア航空に秘書として勤務。その上司だった柴崎氏と株式会社ジェイバを立ち上げたのは、娘が幼稚園のときの24年前になります。

好きな業界でお客様の求めていること、真のサービスやホスピタリティをどう提供するか、心から満足していただけることとは何なのか。それをマネージメントすることに生きがいを日々感じています。個人的には好きなことを続けられている環境に感謝し、その幸せを、後に続く女性たちにも伝えたいと思います。

結婚して子供を持つ。それを足かせと考えるのではなく、自分を成長させるこの上もない環境を与えられたことに感謝し、家族が今の自分を応援してくれたのだと思います。

会社の立場としては航空会社が母体となり、外国に本社を置くさまざまな旅行業界の会社の日本総代理店として業務を広げてきました。各クライアントに対して日本からの集客を最大限に伸ばすべく、予約・マーケティング・プロモーションを行っています。小さい組織ですが One & Only の自負を持って仕事に臨んでいます。現在20名ほどの社員に支えられ、今の自分があると思います。その日々を感謝しながら、社員にはこの会社で働いていて良かった、一緒に頑張って行こうという思いを持ってもらえたら最高です。

人と会って良い人間関係を構築しながら、外を良く見る。自分が動いていれば、いつかきっと実を結ぶと信じでいます。そして子供からは、年を取ることもまんざらではないなと思ってもらえたら、私の人生、それで幸せです。今はまだまだ、やりたいことがたくさん、でも優先順位を常に頭において、周りに助けてもらいながら毎日笑顔でいられたらと思います。

次回は、京急観光の石割裕子さんにバトンタッチです。

JWTCホームページを活用しましょう!

JWTC日本旅行業女性の会
ホームページアドレス
http://jp-jwtc.org/

JWTCのホームページには、当会の紹介や活動内容、ニュースレターのバックナンバー、会員向けのお得な情報などが掲載されており、会の情報を一挙に知ることができます。ご友人などに入会を勧めるさいにも役にたつ情報が満載です。積極的に活用して、JWTCの存在を広めましょう!

連載　狩野知保のサンパウロ便り
H.I.S. Brasil Turismo Ltda.

第4回 ブラジルW杯2014

今まさに、ここブラジルでワールドカップが開催されています。

6月12日の開幕以来、サンパウロの街中がカナリア色（美しい黄色）のブラジル・ユニフォームを着たブラジル人達であふれています。ユニフォームだけでなく、マンションやビルの窓、車のボンネットやバックミラー、飼い犬の背中と、ありとあらゆる所で見られるブラジル国旗。日本では考えられない光景を目にして、「ああ、ブラジルに住んでいるんだ!」とあらためて実感しています。日本で国旗を掲揚したらいろいろ難しいこともありますが、これだけ自国の国旗を堂々と掲げられるのは、うらやましくも感じます。数日前までは、ユニフォーム姿も国旗も、ほとんど見なかったのに、開幕前日になって一斉にスイッチが入るのは、「何でも、前日からしかやらないブラジル流だ」と、ローカルスタッフの弁。なるほど、だからスタジアム工事もギリギリなんですね。妙に納得しました。

青いゴミ袋持参で応援が話題の日本人サポーター

日本人サポーターの方々が安全にご旅行できるようにと、大使館、領事館、旅行会社が事前にミーティングを重ね、さらに日系人組織とも連携を取り、事前準備に携わったことも大変勉強になりました。注意喚起は日本の報道でも相当あったようですが、それでもパスポートを失くしたり、置き引きや盗難に遭った旅行者は数知れません。困って店舗へ駆け込む人たちを助けながら、「命が無事で何よりだ」と心から思ったものです。また、これだけ多くのサポーターが、遠路はるばるブラジルへ駆けつける姿を目の当たりにし、「旅は、人に生きる喜びを与えるもの」という恩師の言葉を思い出しました。

残念ながら、日本代表チームはグループリーグで敗退してしまいましたが、彼らの来伯には家族の間で盛り上がりました。公開練習で息子は、選手からサインをもらい、ナタール　Natalでのギリシャ戦では、日本からのお客様をアテンドするなど、数えきれない思い出となりました。日本から一番遠いブラジルで日本代表を応援できたことは、「サッカー王国」と言われた静岡出身の私にとって大きな誇りです。

いよいよ明日、ブラジルは準々決勝に挑みます。この記事が出るころには、すでに優勝国も決まっていますが、当地ブラジルが優勝してくれることを切に願っています。

Vai Brasil！　次回もお楽しみに。

Chiho Kano

JWTC CRUISE

ダイヤモンド・プリンセスクルーズ乗船体験記

2014年4月15日㈫～16日㈬　横浜大桟橋発着　土井博美　エアサーブ

今回、研修として「ダイヤモンド・プリンセス号」に乗船させていただき、カーニバル・ジャパンの木島榮子社長、ならびに関係者の皆さまに、この場をお借りしてお礼申し上げます。

ダイヤモンド・プリンセス号は、2004年に建造され、就航10周年を機に大規模な改修をしました。外国籍船初の日本式展望大浴場を併設するという画期的な改修もなされ、今回は、そのお披露目を兼ねた乗船体験でした。

旅行会社・マスコミ関係者を対象に、約2000人が参加。私どもエアサーブ社員と親会社の阪急交通社からは総勢150人が参加し、各支店の販売担当者や添乗員も乗船しました。私どもエアサーブからは9人が参加し、前述した150人分の乗船手続きも行いました。

いよいよ乗船開始です。参加者の個人情報がデータ管理されているので、入船とチェックインは驚くほどスムーズです。名前入りのチェックインカード（ルームカード兼用）を受け取ると、気分も高まります。

あこがれのダイヤモンド・プリンセス号

photo
©Princess Cruises
©Chieko Chiba

荷物見張り番の私を残し、当社メンバーは早速、船内の探検に出発。実は、わが社が販促する双方向の通信機器を持参していたので、皆のやり取りを聞きながらの船内散策でした。全長290メートルを縦横無尽に動き回り、機器の有効性を確認するなどしました。

鏡割りセレモニーまでの時間は、14階のプールサイドで映画鑑賞としゃれこみました。名画「ティファニーで朝食を」を鑑賞していたのですが、隣には偶然にも、わが社の部長が見入っていて、これにもびっくり。そうしているうちロビーフロアーでは鏡割りが始まり、シャンパンタワーとともに華やかなセレモニーか繰り広げられました。フロアー上段で私たちは、挨拶されている木島社長の声に聞き入っていました。

乗船時に配られる「Princess Patter（プリンセスパター）」には、乗船中のエンターテイメントやショーなどイベント情報が満載で、長い航海でも飽きない充実の内容です。

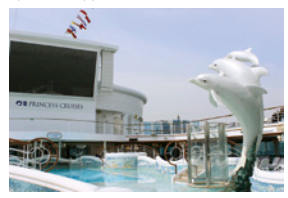
シャンパン・ウオーターフォール

毎日フルコース・ディナーが楽しめるのも魅力

ショー&エンターテイメントを思う存分楽しんで

くつろぎの客室

ショー&イベントが目白押し!



プールデッキ。イルカの像のお出迎えも

日本式展望大浴場「泉の湯」

飽きない充実の内容です。

ディナー前にダンスを鑑賞しましたが、懐かしい音楽に思わず身体を揺らしてしまいました。いよいよドレスコードでのディナータイム。皆さま！　トルテリーニ・パスタは絶品でした。チリ産のワインとパンで、きれいに4種のチーズソースをおいしくいただきました。

21時、横浜港を出港してすぐに、避難訓練が行われました。近隣国では、いたましい大惨事があったばかりです。避難用具・避難経路の確認の重要性を再認識しました。船上避難訓練は、楽しい船旅にするために欠かせない基本動作と痛感しました。

さて深夜、デッキに出てみると、意外と速いスピードで航海するダイヤモンド・プリンセス号の凄さを、あらためて実感。揺れは、ほとんど感じません。

翌朝、下船前に、カーニバル・ジャパンのプレスミーティングが行われ、来年の出港予定や、今後の戦略などが発表されました。私が勤務するエアサーブでは、乗船時のセンディング業務をさせていただいています。お客様のご旅行への期待を損なうことがないように、今回の乗船体験を仕事に活かしたいと思います。

クアラルンプール発―ベールの国から

西垣ゆかり　ミキツーリスト

今回思いがけずに3カ月間のクアラルンプールへの出張を命じられ赴任いたしました。

以前、私が暮らしたアメリカ・ヨーロッパと比べて一番異国を感じたのは、イスラム女性のベールです。イスラム教では、女性は手と顔以外は隠さなくてはいけないため、ベールで髪の毛を覆います（前髪もご法度）。彼女たちをよく見ると、全身真っ黒のベールに包まれていて、顔も目以外を隠している女性、花柄などカラフルなベールに揃いの柄のローブの姿、またシンプルなベールの下は長袖シャツにジーパンという装いのように、ベール姿もさまざまです。ヘアスタイルを変えたり、髪を染めたりというおしゃれができないことは、女性にとっては楽しくないのではと思いましたが、意外にもこのベールはファッションを楽しむアイテムのようです。

ビーズやラインストーンが縫い付けてあるものや細かな刺繍が施されたもの、素材もシルク、サテン、レースなどさまざまです。女性たちはコーディネートを考えて、何十枚ものベールを持ち、首元をとめるキラキラしたピンを集めています。ベールの巻き方にもさまざまな形があるらしく、ファッション誌で特集が組まれるとのこと。戒律を守りながら、イスラムの女性はおしゃれを楽しんでいるのです。

あるモスクへ入場する際に、ブルーのベールとローブを付けましたが、丸顔にメガネの私はまるでドラえもんのよう。イスラムの国に生まれなくてよかったと、つくづく思い知らされました。

彩りも鮮やかな美しいベール

運営委員会からのお知らせ

JWTC勉強会
「メコン川流域の文化と自然の魅力およびクルーズ」

JWTC勉強会「メコン川流域の文化と自然の魅力およびクルーズ」を9月6日㈯に開催いたします。メコン川はチベット高原を水源として、インドシナ半島を縦断する大河です。

今回の勉強会では、メコン川流域の自然環境とそこに根差した生活様式の豊かさについて調査及び提言を行っているNGO法人「メコン・ウオッチ」の木口由香氏と、インターナショナル・クルーズ・マーケティング株式会社の山口彰子氏を講師にお招きして、経済発展著しいメコン川流域の最新事情をお話しいただきます。

講演後には美味しいタイ料理のお食事会を用意しています。詳細につきましては、別途ご案内いたします。ビジターも大歓迎です。どうぞお誘い合わせの上、お申し込みください。

■日時：2014年9月6日㈯
講演会10:30～12:00
食事会12:00～13:00
■場所：タイ料理レストラン「サワディ・渋谷道玄坂店」
※詳細は別途ご案内いたします。

私のふるさと自慢

第3回

新潟県新潟市
伊藤 聡子　ピコツアー

夕日海岸から内陸に向かう道を10分ほど上った坂の頂上に、わが家はあります。新潟駅から列車で約15分。JR小針駅から海沿い・青山海岸付近を、このあたりでは夕日海岸と呼んでいます。

夏の一夜、この海岸には野外ステージが組まれ、「日本海夕日コンサート」が催されます。夕方、愛犬を連れてコンサートの盛況ぶりをのぞこうと、海岸までひと歩き。雑種のメスで、いつも私の帰りを尾っぽを振って喜んでくれる相棒です。彼女が散歩に満足したころ、コンサートが跳ねて道路が混雑する前に、暗い坂を家路につきます。

「ただいま」。玄関のドアを開けると、母が食卓いっぱいに、シンプルに調理しただけの季節の味を並べ終えて待っていてくれています。父はすでにそれらをつまみながら、プロ野球のナイター中継に見入っています。手元には夏の定番「十全ナス（山形では「きんちゃくナス」とよばれています）」の浅漬けも。

新潟は知る人ぞ知るナス王国です。関東で一般的にナスといわれている中型のものや長ナスのほかに、季節になると一般の長ナスの1.5倍の長さと3倍の太さを誇る焼きなす専用の、その名もズバリ「焼きナス」や、小指サイズの漬物用「えんぴつナス」、ソフトボール球ほどの大きさとツヤが自慢の「丸ナス（ホタテやくじらの脂身などといっしょに煮つける）」など、さまざまな種類が市場をにぎわします。

今日の夕げには、十全ナスのほか青臭い路地もののトマト、鮭を芯にしてふくよかに炊いた昆布巻き、お隣の黒埼町特産の黒埼茶豆（他県では「だだちゃ豆」で通っています。枝豆とは品種を分かち、さやの産毛と豆を包む薄皮が茶色いのが特長。味は枝豆の何倍も濃厚で、一度食べると、必ずはまるといわれています。新潟の誇りです）。父の御膳には、行商のおばちゃんが今朝自転車で売りにきたバイ貝のゆでたものと、クチボソカレイの一塩に干したものが、ヒレをちょうどいい具合に焦がされて供されています。

夏の定番十全ナス　写真提供:新潟市坂井漬物商店

日本海夕日コンサート

これが冬の夕げになると、ゆでズワイ、はたはた鍋、あんこう鍋（わが家風は肝味噌味ではなく、水たき）、新潟味噌で味つけしたすき焼き、いくらの自家製醤油漬け、やりいかと南蛮えび（関東では「甘えび」）のお造り、生たらこと大根の煮付け、めずらしく新鮮なものがあがったときにはタラの刺身…となります。春なら近くの山で採ってきたわらびやこごみをおひたしにして、秋なら家族総出で額からもぎったカキノモト（菊花）をゆでて三杯酢でいただきます。

東京暮らしが新潟時代より長くなりましたが、ふるさとを思うとき、親や友人らの顔よりもまず先に、食べ物のにおいと味を想起し胃袋が郷愁してしまうのは、私が食いしん坊だからというわけではない気がします。四季折々の海・里の幸に恵まれたふるさと新潟。「そろそろ、いいあんばいに焼けたよ」。昭和の風情が残る本町市場の商店の軒先で浜焼きされているヤナギガレイの串焼きが、郷愁と旅心を誘います。

JWTC会員からのお得情報

京王プラザホテル

南園 総料理長・李国超「黄綬褒章」受章

1971年の開業以来、京王プラザホテルの歴史とともに中国料理「南園」の伝統の味を受け継いできた現代の名工・李国超がこのたび黄綬褒章を受章いたしました。今まで支えてくださった皆さまに心より感謝を申し上げます。

●今夏も大人気の冷やしそばに注目

中国料理「南園」といえば、夏の定番メニューは冷麺が人気です。是非お立ち寄りください。今後もお客様へ感謝の心を忘れずに、全ての世代の方へ喜んでいただける「南園」の味わいと、最高のおもてなしをお届けします。

☆**丸南園特製五目入り冷やしそば　2,400円**（サービス料・税金込）
☆**黒毛和牛　冷やしタンタン麺　2,600円**（サービス料・税金込）

● ボーナス特典がお得な“サマーグルメチケット”

5,000円のお食事券に500円分のボーナス特典を付けた、“サマーグルメチケット”を2014年9月15日までホテル直営レストラン、バー・ラウンジで販売しています。利用期間は2014年10月31日までですので、ぜひご利用ください。

■予約・問い合わせは03-3344-0111（代表）京王プラザホテル・レストラン予約まで
詳細はhttp://www.keioplaza.co.jp/restaurant/
（情報提供:田辺典子　京王プラザホテル）

編集後記

今回のJATAとの共催の勉強会は、初めて女性講師を迎えました。

日本のクルーズ旅行の発展に寄与し、旅行業における女性経営者の先駆けである木島榮子氏は、苦労されたであろう出来事も笑顔で話され、仲間に助けられ、自然体で進んできたとおっしゃいます。そのしなやかな感性と凛とした越し方に、講演を依頼し傾聴したわれわれも感動いたしました。

人は人に支えられ、能力は出会いによって開花するとの言葉が思わず脳裏に浮かび、自分自身もそんな生き方をと切に願います。

JWTCの活動を通して、会員同士と関係者の方々に情報交換の場の提供と「学ぶ・気づく」の提案とともに、会得したことを自分の言葉で発信する大切さを提言、後押しする会でありたいとも、同時に感じました。（T・K）

JWTC NEWSLETTER

JWTC ニュースレター 秋号　vol.34-3

発行日　2014年8月1日
発行人　戸井川裕美子
編集長　千葉千枝子
発行所　日本旅行業女性の会
編集制作　日本旅行業女性の会 広報戦略部
本多美知子
印刷デザイン　株式会社 誠晃印刷

入会のご案内　JOIN US !

私たち日本旅行業女性の会（JAPAN WOMEN IN TRAVEL CLUB, 通称JWTC）は、1980年に発足した旅行関連産業で働く女性の会です。

＊会員相互の親睦をはかり、旅行文化の向上に寄与する
＊会員の専門知識、能力を生かし、社会への貢献を図る

という目的を掲げ、勉強会や親睦会等の活動を続けています。

会員には旅行会社やホテル、ツアーオペレーター、航空・クルーズ、または旅行関連のメディアや保険会社など、ありとあらゆる旅行に関連した企業、団体に所属する女性たちが集い、日々、研鑽を積んでいます。現在のメンバー数は、約70人。会員一人ひとりが業界のプロです。その高い専門知識や経験、技術を、共通の財産として、次代を担う業界女性にバトンタッチしていくことを目標に、「広げよう！人の輪　旅の輪」をキャッチフレーズに掲げ、活動を行っています。

入会資格は、まずは女性であること。そして、旅行関連の会社・団体等に勤務していること、この2つです。皆さんも、ご自身の会社から一歩、外に飛び出て、私たちの仲間に加わりませんか?業界を支える女性たちの話を聞くことで、刺激や勇気を得ることができます。

ご興味を持っていただいた方は、ぜひホームページ（http://www.jp-jwtc.org）で私たちの活動をご覧ください。お問い合わせや、お申込みは、広報戦略部・千葉千枝子 info@longstaystyle.com まで。皆さんのご入会をお待ちしています。